

教授要項の改訂にあたって (XII)

第4学年以上のカリキュラムについては、これまでと大きな変更点はない。基礎配属、SGL、TBL、基礎医学－臨床医学連携型カリキュラムなど、これまで以上に自主的な学習意欲を高め、動機付けを与えるタイプのカリキュラムを充実させている。また、第4学年で臨床・クラークシップ開始前にCBTと臨床実習前OSCEに合格すると共用試験実施評価機構から正式にStudent Doctorの称号が与えられることになっている。それにより、今まで以上に臨床の現場で生きた教育を受けやすくなることになると考えられる。その分CBTおよび診療実習前OSCEによる進級判定はより厳格となるのは致し方のないことであろう。それは、平成26年度入学者から適用される新カリキュラムへの改訂の動機につながることである。

第1学年、第2学年及び第3学年のカリキュラムは大幅な変更がなされている。まず、授業時間が1時限70分、1日6時限となることである。それは臨床・クラークシップ70週化に伴い、それ以前に必要な学習の再編成をおこなった結果である。しかし、単なるコマ数の詰め込みではない。教室での座学で学ぶ内容の再吟味をおこない、臨床・クラークシップ教育でできるだけ生きた学習を可能とするため、各領域のminimum essenceを追求し、スリム化を図る。その一方で上述したようにCBT合格に耐えられるだけの学習内容の充実も図られなければならない。まだ、今後には様々な改善を加えていかなくてはならないと思われる。

しばらくは学年によって授業時間が異なるという変則的な状態となり、また臨床・クラークシップが2学年にわたることから、臨床の現場での対応に問題が生じる可能性も考えられる。しかし、学ぶ意欲、教える意欲が高ければ道は自ずと正しい方向に進むものと確信している。